

三雲養護学校は、昭和51年の開校以来、今年で49年目を迎える、知的障害と肢体不自由の児童生徒が通う特別支援学校です。

学校は、滋賀県南部の湖南市、甲賀市に位置し、「本校」と「石部分教室」が湖南市に、「紫香楽校舎」が甲賀市にあります。「本校」の近くには、湖南三山と呼ばれる国宝のお寺の一つである長寿寺（通称「東寺」）があり、また、「紫香楽校舎」の近くには聖武天皇が造営された紫香楽宮の跡があります。どちらも古代の歴史を感じる地であり、自然豊かな地でもあります。

「本校」には、知的障害と肢体不自由の児童生徒を対象にした小学部、中学部、高等部が設置されており、「障害福祉の父」と呼ばれ、「この子らを世の光に」の言葉を遺された糸賀一雄先生で有名な滋賀県立近江学園に入園している児童生徒も通学しています。

平成25年に開設された「石部分教室」は、県立石部高等学校内に設置されており、軽度から中度の知的障害のある高等部生を対象としています。三雲養護学校の校区である湖南市・甲賀市と草津養護学校の校区、野洲養護学校の校区、さらに通学調整区域である日野町が校区となっています。

「紫香楽校舎」は、国立病院機構紫香楽病院に入院している児童生徒を対象としており、児童生徒は病院に隣接している校舎へ通学、あるいは病室のベッドサイドで学んでいます。

このように、三雲養護学校は、福祉機関、高等学校、医療機関と様々な機関と密接に関わりを持ちながら教育を進めている学校です。

本校の学校教育目標

ひと
「人間としての尊厳 と 可能性への信頼」を原点として

- ・児童生徒一人ひとりの発達と障害に応じた教育を行う
- ・健康で明るい生活をするために、調和のとれた心身の育成に努める
- ・社会的・職業的に自立できる人間の育成をめざす

子どもたちは、学校教育目標とその目標に沿った各部の教育目標の下、毎日元気に学び、力いっぱい学習しています。また、全校の教職員は、子どもたちの育ちを思い描きながら、互いに連携を取り、力を尽くして取り組んでいます。

本校は、来年度開校50年目となります。50年という大きな節目を迎えるにあたって、これまでの50年の歩みを振り返りながら、これまで大切にしてきた思いをつないでいくこと、それとともに、これからの学校づくりという視点から、教職員、保護者様、そして地域の方々と、将来構想を語っていく、これらのことを大切に捉え、取り組んでまいります。

私たち教職員一同は、創立以来、陰になり日向になりして支えてくださっている湖南市、甲賀市の皆様、また学校周辺の地域住民の皆様や近江学園をはじめとする各福祉施設ならびに病院関係者の皆様、そして何よりも本校の教育活動を支えていただいている保護者の皆様への感謝を忘れず、地域の特色を生かした指導と学校づくりに取り組んでまいります。そして、地域に学び、地域とともにある学校となるよう努力してまいります。

どうぞよろしくお願いいたします。